

夏秋キュウリ（露地栽培）の病害虫の発生状況（8月中下旬）

1 ベと病

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図1）。多湿条件により発生が多くなるので、発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

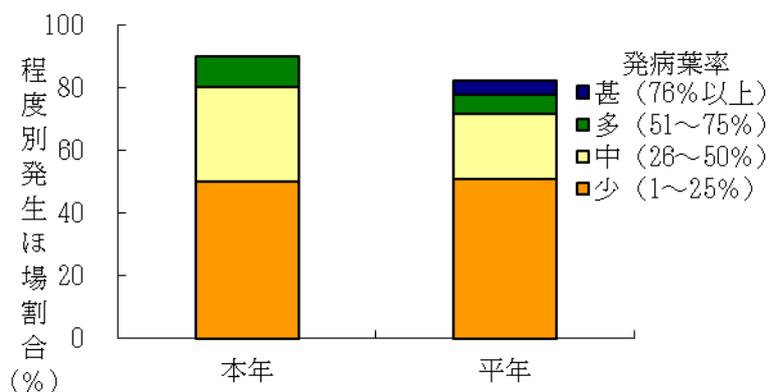


図1 ベと病の発生状況

2 うどんこ病

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図2）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

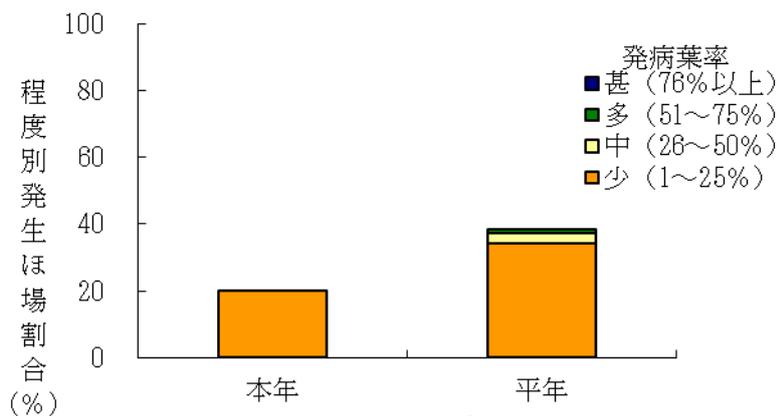


図2 うどんこ病の発生状況

3 褐斑病

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図3）。まん延すると防除が困難となるので、発生初期から防除を実施してください。

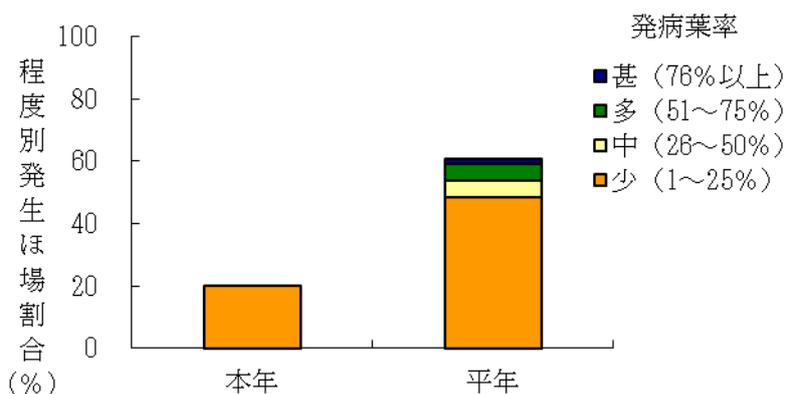


図3 褐斑病の発生状況

4 炭疽病

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや高い状況でした（図4）。まん延すると防除が困難となるので、発病葉は摘除し、発生初期から防除を実施してください。

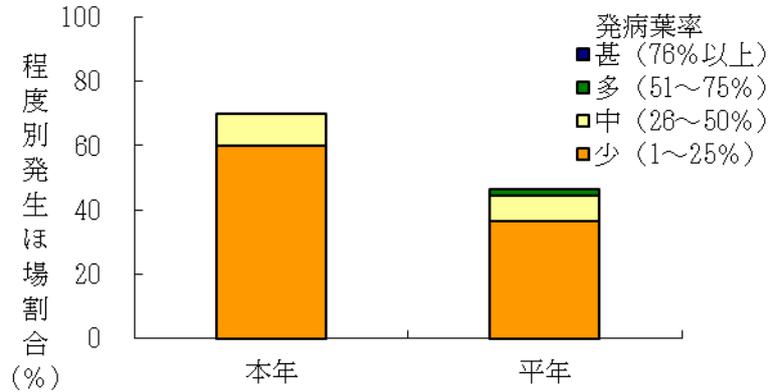


図4 炭疽病の発生状況

5 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年並でした（図5）。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、ウイルス病を媒介するので注意が必要です。

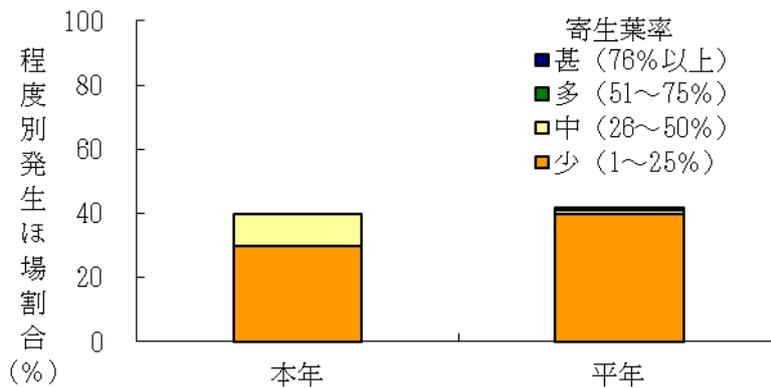


図5 アブラムシ類の発生状況

6 ハダニ類

巡回調査における発生ほ場割合は平年よりやや低い状況でした（図6）。多発すると防除が難しいので、ほ場をよく確認して、低密度時から防除を徹底してください。また、薬剤によっては、感受性が低下している可能性があります（表1）。薬剤防除を行った場合には、防除の2~3日後に葉裏を観察し、効果が十分でない場合には、異なる系統の薬剤で防除を行うなど適切に対応してください。

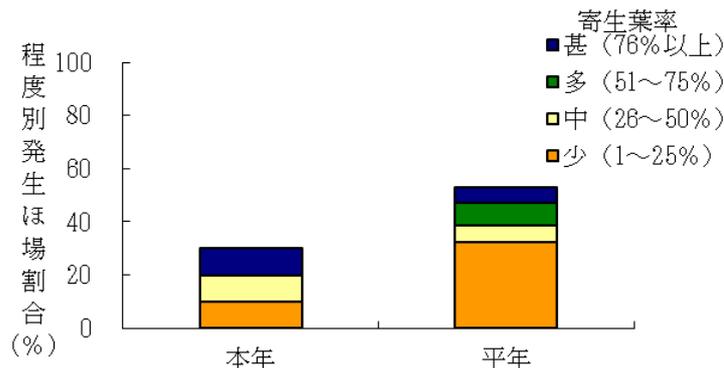


図6 ハダニ類の発生状況

表1 ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果

供試薬剤	イチゴ	キュウリ	キュウリ	キク	イチゴ	イチゴ	イチゴ	イチゴ
	2001年 農試	2002年 農試	2003年 農試	2004年 農試	2008年 防除所	2013年 防除所	2015年 防除所	2018年 防除所
アグリメック	—	—	—	—	—	—	—	◎
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	○*	◎
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—	△
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*	○
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*	—
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*	△
ダブルフェースフロアブル	—	—	—	—	—	—	—	△
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—	—
パロックフロアブル	○*	—	○*	—	—	—	△*	—
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*	◎

注1)◎:効果高い、○:効果が劣る場合あり、△:効果が劣ることが多い、—:未検定
 (◎:すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○:死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)

注2)※は、殺卵効果を検定。

● 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所までご連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp